

上田邦義シェイクスピア能と日本思想史

UEDA MUNAKATA Kuniyoshi's Shakespearean NOH PLAYS
And History of Japanese Traditional Thoughts

川田 基生

KAWATA Motoo

上田（宗片）邦義のシェイクスピア能は禅の芸術であり、日本仏教の千数百年の歴史の中にある。その核心は自己と他者の救済にあり、人間の根元的苦悩も解決にある。

上田の業績は計り知れないほどの調査と解説に基づいている。「ずいぶん時間がかかったよ」とは本人の言葉である。シェイクスピアの解説、能楽の探求、仏教の理解、そこからの創作のつむぎだしには膨大な時を要している。

しかも、結論はきわめて簡潔で洗練されている。深遠な世界の凝縮。

上田「能ハムレット」の 生きるべきか、死すべきか の場面

To be or not to be, * that is the ques-tion. 英詩の無韻詩 Blank verse の弱強では

u — u — u — * u — u — u — *theatrical pause 日本の七五調では

一 二 三 四 五 六 七 一 二 三 四 五 能の原曲「井筒」の謡は

あ かつ き ご と の あ か の み ず

ここにギリシア・ローマの韻律、詩の響きが、ダンテ、ペトラルカのルネサンスの詩のリズムとなり、さらにジェフリー・チョーサーからシェイクスピアへとうけつがれた韻律が日本の文芸に受容された、という視点からの考察は私の博士論文「シェイクスピア能研究」を読んでいただくことにして、今回は思想史上の位置づけを試みたい。

上田能においてハムレットは能舞台で悟りを開く。釈尊が菩提樹の下で悟りをひらいてから2500年ほどの後である。出家していないハムレットの悟りの可否は如何？上田も聴衆に禅を説く。僧侶でもない者が。

日本仏教の夜明け、飛鳥の時代、聖徳太子が日本仏教の方向性を確立した。聖徳太子の示した道は破天荒なものであった。在家仏教で、という方向を示したのである。聖徳太子の思想は「三経義疏」（さんきょうぎしよ）に示されている。「維摩経（ゆいまぎょう）」「勝鬘経（しょうまんぎょう）」「法華経」の注釈である。維摩経、勝鬘経は在家の者が主人公であり、「法華経」には次の反論が注釈されている。「法華経」安楽行品（あんらくぎょうぼん）の 常に座禅を好

み、しずかなる所にあれ を否定 市中の喧騒をさけるな と聖徳太子は記述している。

日本仏教はその淵源において 在家 なのである。劇場空間でのハムレットの座禅と悟りは聖徳の指し示した線上にある。

奈良南都六宗の考究した最大の課題は「生死（しょうじ）の苦悩」。

上田の宗教的境涯に一番近いのは、性空であろうか。性空（しょうくう）910～1007。食べ物もままならない土地で修行したという。花山法皇が帰依したという。和泉式部が訪ねたが行の最中だとして会わず。式部は次の歌を残し下山。

暗きより暗き道にぞ入りぬべき はるかに照らせ山の端の月
性空は呼び戻し 歌を返した

日は入りて月まだいでぬたそがれに かかげて照らす法のともしび

性空の伝説に普賢菩薩に出会った、ということがある。「十訓抄（じっくんしょう）」

性空の夢に、「普賢を見奉らんと思はば 神崎の遊女の長者を」とのお告げあり。行ってみれば、遊宴乱舞、性空鼓を打てば、遊女の長者 たちまち普賢菩薩の形を現じ、白象にのりて貴賤男女を照らす。

この伝説は能に取り入れられ、謡曲「江口」となっている。

「能ハムレット」のフィナーレ、最終楽章、

The rest is silence, silence.

And flights of angels sing thee to thy rest;

Flights of angels sing thee to thy rest. は謡曲「江口」のキリが原曲である。

聖徳太子に始まる日本仏教の流れの最終走者は誰か。NHK、教育放送、Eテレの宗教番組「日本仏教の歩み」は久々の納得できる内容となっている。仏教学者竹村牧男、1948～ 東京大学文学部インド哲学専攻。今年9月までの放送であるが、碩学。

その説は 聖徳太子に始まり 9月20日に 鈴木大拙で終わる。竹村によれば、鈴木大拙こそ日本仏教の最終最新走者。

その大拙禅を継承し、国際化したのが R.H.ブライスである。

ブライス禅の後継者は3人いて、平成天皇、荒井良雄、上田邦義である。この春の受勲の宴で、天皇と上田邦義は何かを笑顔で語ったとされているが、それはブライス禅の会話であろう。